

1 ごあいさつ

昨年10月に友の会代表となりました橋本でございます。Boletínの前号では、会員歴3年少々の私が田村先生追悼集の編集を引き受けるに至った顛末を記しました。執筆当時は「追悼集の作業が終わったら、理事の一人として会の運営に貢献できれば良いな」と気楽に考えていたのですが、

昨年10月29日の総会で、何とこの私が代表に推挙されてしまいました。全く想像もしていなかった展開です。スペイン語をロクに話せない私が代表とは、天国の田村先生もさぞ苦笑いなさっていることでしょう。

さて、2021年2月に先生が亡くなられて以降、友の会はすっかり元気が無くなったなあ、と私は感じておりました。その語学力だけでなく人として田村先生は偉大な方で、とても誰かが代われるような存在ではなかったため、会員の多くが「先生無しではもう無理だ」と感じていたのかもしれない。実際、「追悼集刊行を機に、会を解散してはどうか」との意見もちらほら聞こえていたのです。

ところが昨秋10月15日に開催された「田村会長を偲ぶ会」で、先生のご主人である田村和雄様から「友の会には今後も期待しています」とのメッセージが語られました。あのお言葉で、友の会に漂っていた空気は確実に変わった、と私は思います。「先生は亡くなられたけれども、私たち一人一人が出来ることをやろう」との気概が生まれたのです。パコさんが毎月献身的に開いてくださるスペイン語講座は、当初は中級クラスのみでしたが、最近、初級クラスが新たに開設されました。事務局スタッフや会員諸氏のご努力により、毎月の例会にも活気が戻ってきました。あの偲ぶ会から1年。いつしか、解散といった後ろ向き意見は聞かれなくなり、むしろ現在では、より積極的な展開を図るべく、長崎県主催の国際協力・交流フェスティバルへの出展準備を進めているところです。このフェスティバルを通じて、新規入会してくださる方もおられることでしょう。今はハッキリと「友の会には明るい未来があります」

Contenido

1. あいさつ
2. 2022年の活動報告
3. 田村美代子先生を偲ぶ会報告
4. スペインぶらぶら歩き

と言い切ることができます。皆様、どうぞご期待ください。私も、能力不足は重々承知しつつも、会の運営に努力して参ります。

なお、この挨拶文を書き進める中で、「友の会代表なのにスペイン語ド素人では格好悪いよなあ。よし、DELEのA1、いやA2を目指すぞ」との思いが湧いてきました。この1年、個人的にも不思議な出来事が色々ありまして、「スペイン語にもっと精進しなさい」と天から言われているような感覚もあったのです。皆様の前で宣言すれば勉強をサボれない、との私なりの作戦でもあります。こちらもどうぞ応援いただければ幸いです。

橋本和正

2 2022年度(2022.10～2023.9)活動報告

1. 月例会 (各月第4土曜日14:00～16:00実施)

年月日			講師 (敬称略)	内容	参加者数
2022	10	15		田村美代子会長をしのぶ会	46
2022	10	29		総会	9
2022	10	29	徳山光	長崎県美術館所蔵ピカソについて	9
2022	11	27	田中彰	マドリードぶらぶら歩き	5
2022	12	18		クリスマス会	13
2023	1	28	Francisco Torregrosa	MIRANDO UN CUADRO: GUERNICA (絵ゲルニカを観る)	12
2023	2	25		田村美代子会長の思い出を語ろう	13
2023	3	25	波多野武徳	メキシコの家族	8
2023	4	22	園田尚弘	天正・慶長遣欧使節とスペイン	9
2023	5	17	田中悦子	ステンドグラスの歴史	9
2023	6	24	橋本和正	スペイン・マジョルカ島について	12
2023	7	22	橋本和正	スペイン・マジョルカ島での 海洋国際会議報告	9
2023	8			休会	
2023	9	23	Pilar Miguel Casanova	サラゴサについて	10

2. スペイン語教室

・2024年4月から初級クラス開設

講師：Francisco Torregrosa

開催日時：毎月第二土曜日 初級13時から14時30分、
中級15時から16時30分

会費：スペイン世界友の会会員500円 会員以外1000円

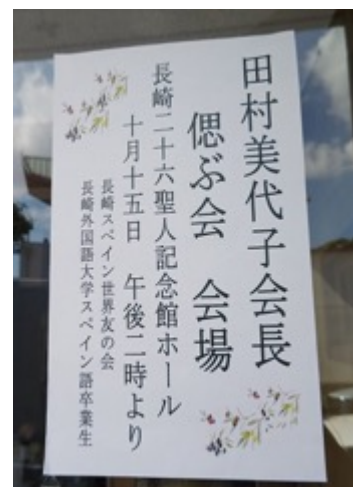
スペイン語教室実施実績

年月日			初級参加者数	中級参加者数
2022	10	8		9
2022	12	10		9
2023	3	11		9
2023	3	18		8
2023	4	8	5	8
2023	5	13	2	9
2023	6	10	3	9
2023	7	8	4	10
2023	8	19	3	10
2023	9	9	4	8

3 田村美代子会長を偲ぶ会報告

2022年10月15日14時から二十六聖人記念会館にて、2021年2月10日にご逝去された田村美代子会長を偲ぶ会が開催されました。長崎スペイン世界友の会会員、田村会長とご縁のあった方々、そしてご親族を含めた46名の方にご参集いただきました。当日は、長崎スペイン世界友の会の発足当初からのメンバーである徳山光氏の開会挨拶を始めとし、田中彰氏、園田尚弘氏から田村会長との思い出について語っていただきました。また、田村会長とゆかりの深かった、長崎精道学園の牧山涼子校長や、ボリビアよりスサナ西澤氏、福岡大学青木文雄教授より追悼のお言葉をいただき、田村会長の幅広い交流関係、そして実績を改めて認識する機会になりました。また、長崎外国語短期大学、長崎外国語大学での教え子の皆さんによるビデオメッセージの放映があり、田村会長のスペイン語教育への思いや、学生とのエピソードを知ることができました。

田村会長はスペイン世界の音楽をとっても愛していました。会長と共に活動したフォルクローレバンド「バーバン」メンバーなどによる演奏が会場の雰囲気盛り上げ、田村会長らしい偲ぶ会となったのではないかと思います。そして最後に、会員が協力して作成した田村会長の追悼文集をご親族に贈呈することもできました。



この偲ぶ会は田村会長が長崎を拠点に、スペイン語やスペイン世界の文化を通じて、さまざまな人がつながるきっかけを作ってください、その輪が広がっていったことを実感する機会でもありました。また、会員であり田村会長の教え子でもある朝長愛さんが生けた花の祭壇の真ん中で、田村会長の笑顔の写真がいつまでも心に残ります。

長崎スペイン世界友の会会員が田村会長への想いを込めたこの偲ぶ会の会場には、きっと田村会長もいらっしやって、皆様と一緒に楽しい時を過ごされたのではないのでしょうか。

堀江直美



4 田中彰の「スペインぶらぶら歩き」

「セビジャーナス」と芸術家ロルカ

20世紀初頭のスペインからはピカソ、ダリ、ミロ、ブニェール、セゴビア、ガウディなど、そうそうたる芸術家が現れた。

1936年のスペイン、フランコ総統はモロッコから兵を率いてスペイン国内に向かった。内乱である。同じ年、フェデリコ・ガルシア・ロルカという芸術家が生まれ故郷のグラナダで命を落とした。銃殺である。38歳という、短い人生であった。スペイン市民戦争初期の話である。詩人でもある彼の詩、

Quando yo me muera,
enterradme con mi guitarra
bajo la arena.

私が死んだら、
砂地の下に埋めて下さい
ギターと一緒に。

Quando yo me muera,
entre los naranjos
y la hierbabuena.

私が死んだら、
埋めて下さい
オレンジの木々とハッカの種々の中に。

Quando yo me muera,
enterradme si queréis
en una veleta.

私が死んだら、
できるならば埋めて下さい
風見鶏のもとに。

¡Quando yo me muera!

私が死んだら！

このフェデリコ・ガルシア・ロルカ、生まれ故郷のアンダルシアが大好きで民謡やフラメンコを採譜して、紹介している。彼自身、ピアノやギターでもって演奏をもしている。

スペイン人も日本人も大のお祭り好きだ。どんなに信心深い人でも、お祭りとなると人が変わる、神輿に鎮座ましますご本尊が担ぎ手に揺らされて、あっちへふらふらこっちへふらふら…、山車（だし）に乗せら

れたマリア、キリストはボロボロのふらふら…。とくにアンダルシアの人のお祭り好きはすごい、髪振り乱してワッショイ、ワッショイ…ワインのはいったボタ(羊の皮の酒袋)が次から次へとまわってくる。酔いつぶれて広場の芝生で横になっていると、そばにいる爺「何寝てやがんだ、この金玉野郎、マカレーナの聖母様がこっちに来なさるぞ、起きろ、踊れ、ウギャー…」見てみると山車に乗せられた聖母の像が群衆にガシャガシャされながらこっちに向かっ

てくる。それにしても品のない言葉が飛びかっている…。フェデリコ・ガルシア・ロルカの美しい詩とことばはアンダルシア地方のどこからでてくるのだろうか？ そんな事を考えていると、目の前で、目元パッチリ、長い黒髪、浅黒い肌の美女が不思議そうに私を見ている、「アッ、マカレーナの聖母様だ」…そこで記憶がストーンとなくなってしまう。



山車（だし）に乗る神の子イエス・キリスト

撮影：田中彰

スペインはアンダルシア地方が誇る詩人、劇作家、音楽家、そして絵描きのフェデリコ・ガルシア・ロルカが発掘し採譜した民謡の中に「セビジャーナス」というのがある。セビリヤを中心にもてはやされた踊り歌でスペインの老若男女(特にアンダルシア地方)はセビジャーナスが祭りではじまるとほとんどの人が踊りだす。日本でもお祭りでソーラン節、東京音頭や炭坑節らがはじまると体が疼いて踊りだすでしょ、それと同じです。

セビリヤ万歳
セビリヤの女たちはショールの中に
セビリヤ万歳と縫いこんでいるんだ
みんな万歳
男たちも女たちもみんな万歳
歩きまわって知ったのさ
マカレーナの聖母のことも何もかも
君のような美しい人を俺は見たこともない
なんて素敵なんだ君の姿
なんて素敵なんだ生まれ故郷よ
川よ帆船の白い帆よ
山の緑の木々よ
なんて素敵なんだ。(セビジャーナス)



アンダルシア地方の祭りでは着るショールと服
撮影：田中彰

スペイン市民戦争はフランコ側の勝利に終わり、フランコ独裁政治へと移っていく。「フランコ側が勝とうが、相手側の人民戦線政府側が勝とうが、俺たちには関係ねえ戦争だ殺し合いだ、バカヤロウ、コーニョ」と爺さんが小さな声で愚痴っていた。そんな時代をくぐり抜けながら踊り歌「セビジャーナス」は歌い、踊りつなげられていく。1960年代になると「市民戦争」の暗い傷跡も薄まり、とはいってもテロ行為の報復合戦はまだまだ凄まじいもので、1973年、ルイス・カレロ・ブランコと言うフランコ総統の右腕が爆弾でバスク解放連合（ETA）によって暗殺され、激怒したフランコ総統はテロリストを報復死刑にしたりと凄まじい歴史がまだ続いていた。私もプエルタ・デル・ソルとプラサ・エスパーニャ駅で爆弾に曝されたことがある。

そんななかでもプロの「セビジャーナス」歌い手がレコードの発展進歩によってどんどん現れてくる。1970年代にはとうとうピークを迎え「エル・アディオス」というセビジャーナスが世にでることになる。その当時、ラジオから流れる歌は、日本のアニメソング「アルプスの少女ハイジ」か、この「エル・アディオス」だけと言っても過言ではない。

愛する友との別れ
なんだこの空虚感
別れのときにふる沈黙のハンカチ
あなたの乗る船は海の彼方へ
なんだこの空虚感
底なし井戸のよう
まだ行かないで
私のギターまでもがむせび泣いている



「エル・アディオス」からの抜粋

カンテ・フォンド
(フラメンコを唄う歌い手と奏でるギタリスト)
撮影：田中彰

「セビジャーナス」はフェデリコ・ガルシア・ロルカが発掘し発譜し今に歌い踊り継がれている。彼は生まれ故郷であるグラナダ、アンダルシア地方を愛し唄った。

みどりよ、私の愛するみどりよ
みどりの風、みどりの木々よ
海に浮かぶ船よ
山間をかける馬よ
…

ロルカ「夢遊病者のロマンセ」より

1975年11月、フランシスコ・フランコ・バーモンテ総統はこの世を去った。享年82歳、フェデリコ・ガルシア・ロルカが逝ってから39年後になる。ロルカの作品はその間スペイン国内では発売禁止の憂き目にあう。ロルカの口の字でも言ったらひっぱられる時代であったが、スペイン民衆の多くはロルカの詩を愛し、最初の2行は何らかの詩を暗唱できた。フランコ総統は死ぬ直前にDespedida(遺書)の中で

「…祖国スペインのためにいろいろやってきましたが、わたしがここから全てを許すように、みなさまもどうか、わたしをお許し下さい… ¡Arriba España! ¡Viva España! (フランコ側スペイン万歳、反フランコ側スペイン万歳)」

と綴っている。そして今マドリードの中心地プエルタ・デ・ソルにはフェデリコ・ガルシア・ロルカの銅像が掲げられている。

<長崎スペイン世界友の会>

入会金:2,000円、年会費:1,000円。関心のある方は、下記にご連絡ください。

連絡先:事務局所在地:

〒852-1855 長崎市中園町17番14号「カサ・イベリア」内

電話・Fax:095-844-3318

メール:<mailto:info@amigos-mundo-hispanico.jp>

URL :www.amigos-mundo-hispanico.jp